新宮山彦ぐるーぷ第２０８１回

太古の辻『これより南奥駈道』看板補修と
天狗の稽古場看板取り換え

◇実施日：２０２０年５月１３（水）～１４日（木）晴
◇参加者：村吉光夫　　１名

【５月１３日（水）】

太古の辻に掲げられた『これより南奥駈道』の看扳を大勢の参加で第二世代に取り替えたのが５年前でした。初代は更に遡る事２９年、「奥駈道が全部歩けるようになったぞう」と世に宣言する気持ちで立てた看板だ、とは当時を知る先輩諸氏から聞いた言葉です。沖崎代表が「古い看板を保存する」とし、現在持経小屋に掲げられています。千日刈峰行を仕上げられた先輩方の汗と思いが込められています。

新しく作るように言われ、最初の物を変えないように心掛けました。文字は玉岡憲明氏の奥様、故節子さんの揮毫と聞いています。写真に撮り忠実に文字をたどりました。標柱にある「奥駈葉衣会」の名も玉岡さんの「南奥駈道復活を始めたのは奥駈葉衣会だ」の言葉で残すことにしました。ご自身が誰にもマネが出来ないだけ汗を流し苦労されているのに、裏方のように振る舞う玉岡さんの生き様です。

標柱に書いた「奥駈葉衣会」の文字が剥がれていると聞いて、看板を作りボルトで留める事にしました。

朝５時半に天理の家を出て、１人旅の気楽さで前鬼に向かいます。ゲート前に車が２台停まっています。ボチボチと舗装路を歩き４０分で小仲坊に到着。私にすれば上出来のペースです。閉じたお堂にお参りをして、いよいよ太古の辻へと歩き出したら、アレ、道はどこ？この場合はどこに道標を立てたら良いかな、とつい思案してしまう、私の悪い癖だ。

５年前には大勢の皆さんに巻き込まれるように歩いて随分と早く着いたが、今日は登りが苦手な自分がモロに出ている。木の階段がこんなにいっぱい有ったかな。昼前に太古の辻に着いて、まずは腹ごしらえ。天気は快晴ながら西風が強く、東斜面を少しだけ下がって穏やかに助六寿司を快食。

最初に「奥駈葉衣会」の看板を取り付け。続けて大看板の裏の桟木の緩みを抑える。短いネジが抜けていた、と沖崎代表に聞いていたが、ネジが本体を突き抜けて表に出てはいけないので５cmのネジを５本使って締める。ついでに裏の「持経まで・・」の距離標がうつむき加減だったので長い六角ネジで再固定して本日の任務終了。

【5月14日（木）】

今日も天気上々なれど、二日続けて山を歩くのは久し振り。奥駈道を歩き通す人はすごいと思う。

１５０cmの杭を一本と「天狗の稽古場」の看板をザックに差して持経の小屋を7時に出発。目的地は天狗の稽古場。もう何年前になるだろうか、確か横山さんが百日行をされていた時だったと記憶している。玉岡さんから「地蔵岳の北のなだらかな草原で居合道の師範が鍛錬されていて、その場所を（天狗の稽古場）と呼んでいる。行って看板を立ててほしい」と言われた。

その看板が傷んできたので取り替えることにしました。前回は6時間で到着できたけど、果たして今回は？

前回は角材、今回は軽い抗なので随分と楽になっているはずですが5時間半もかかりました。途中で単独の青年に二人出会う。ゴールデンウィークより更に水場が細っていることを話し、持経小屋に置き水が有ると説明する。

久しぶりの天狗の稽古場は気持ちがいい，大峯道中でここが一番穏やかな場所でないだろうか。最近はここでテントを張った話も聞く。

立っている看板を角材ごと抜いて杭を立てて看板を取り付ける。看板の表にボルトを見せないために、裏に取り付けた座金付きナットにボルトを合わせて入れる。自分で考案した方法ながら面倒だ。同じ方法で靡看板を多数設置されている皆さんの苦労が偲ばれる。

午後２時、帰路に就く前に地蔵岳の山頂から沖崎さんに電話を試みるが通じず。メールを送って地蔵岳から３５０m下を通っている林道を目指して道なき斜面を下る。下北山村がイベントとして前鬼から持経までの奥駈を実施した時に、玉岡さんと村の職員がこの林道から地蔵岳に登り、サプライズ接待をし、体調不良者を連れて下った。私はついて行くのが精いっぱいで、どこを歩いたのかさっぱり覚えていない。

下の林道は水平に通っているので、下りさえすれば必ず林道に出る。しかし歩きにくい。獣道がたくさんあって、大まかなラインは読めるが、柔らかくて足が止まらない。沢に出ないように気を付けていたのに左右の沢が合流するところから涸れ沢歩きになってしまった。滝が無い事を祈る。

結局１時間４０分で林道に到着。ここで車が待っていてくれたら大いに時間短縮に役立つルートだと言えるのだが、今日は持経小屋まで歩いて帰るしかない。一息ついて座っている所から林道の距離表が見えるけど、数字は読めない。果たして小屋迄何キロか？歩き始めて距離

標を読む。数字は・・・１３km。林道を８km歩いて持経小屋まで帰りました。

（記；村吉）